

2018年度（対象年度：2017） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
601	大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	C	
	①大学の教育理念・目的に基づく大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ②大学の教育理念・目的に基づく各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針(各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等)の適切な明示		
602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	B	C
	①大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数 ②適切な教員組織編制のための措置 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授又は助教)の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ③学士課程における教養教育の運営体制		
	③学士課程における教養教育の運営体制		
603	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	C	
	①教員の職位(教授、准教授、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ②規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
601① 大学として求める教員像は、「学校法人龍谷大学就業規則」に定めている [601a] が、自己点検・評価の結果、努力課題と指摘された「求める教員像」については、「教育職員の採用募集に関する申し合わせ」[601b] に「本学の建学の精神を尊重するとともに、教育活動を始めとする業務に意欲的に取り組む意志を有すること」と定めている。
601② 各学部・研究科等の教育組織の編成については、2017年度第9回学部長会（2017年6月29日開催）で「教育職員選考基準」[601c] と各学部の「教員人事規程」の内容の確認を行ったが、平準化に向けて調整すべき事項があるため、学部長会における検討を継続している。 このため、自己点検・評価における努力課題とされた「教員組織の編成方針」については、「教育職員選考基準」と各学部の「教員人事規程」の調整完了後に、「求める教員像」のもとに整備する予定である。
602① 各学部の専任教員数は、文学部：104名、経済学部：50名、経営学部：39名、法学部：55名、理工学部：106名、社会学部：66名、国際学部：40名、政策学部：29名、農学部：72名、短期大学部：23名、社会科学研究所：2名、龍谷ミュージアム4名、であり、大学全体としては、590名の専任教員が在職（2017年4月1日現在）しており、当然のことながら大学設置基準上、必要な教員数を満たしている。

602② 各学部では、教員採用時、主たる授業担当科目のカリキュラム上の必要性、担当する上で適切な身分や募集方法をその都度確認しており、国際性や男女比等も踏まえて選考を行い、適正に専任教員を配置している。採用手続きの適切性については、「教育職員選考基準」に則り、学部長会が合意プロセス [602a] の中でその都度点検しており、適切な教員組織編成となるように措置が講じられている。

また、研究科担当教員については、「大学院担当教員選考基準」 [602b] を定め、担当分野に必要な教育研究上の指導能力を明示し、これに則って選考している。

教員の授業担当負担については、「専任教員の担当授業時間数に関する基準」 [602c] を定め、教員の職位に応じて担当する授業時間数を定めている。加えて、専任教員が役職の兼務を命ぜられた場合の負担軽減の措置として、「専任教員役職兼務者にかかる負担軽減措置要項」 [602d] を定め、役職に応じて担当授業時間数を減じることができるように措置している。

また、専任教員の担当授業時間数の適正化を図るため、2015年度、部局長会のもとに「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」を設置し、役職者の負担軽減及び労務管理の観点及び教育研究の時間確保の観点から、教員の過度の負担を軽減する必要性等について検討を行い、答申 [602e] としてとりまとめ、その内容が部局長会で諒とされたが、未だその内容を規定化するまでには至っていない。

602③ 教養教育科目担当教員は、いずれも各学部にも所属し、教授会の構成員となることで、学部全体の組織的な連携体制を確立している。加えて、教養教育科目は、学部横断的な教育課程であることから、より組織的、効果的に教育展開するために教養教育センターを設置して教養教育科目の全体的な運営を行い、審議が必要な事項については、教養教育会議で審議している。

603① 教員の募集・採用・昇任等については、「教育職員選考基準」及び各学部が定める「教員人事規程」に基づき行っている。募集・採用に際しては、まず担当する主たる授業担当科目のカリキュラム上の必要性を確認した上で、適当な身分や募集方法を確保しており、職位ごとに行っているものではない。昇任については、昇任に要する年限や審査委員会の構成方法、審査の方法が各学部で整合していないため、教養教育科目を主たる担当科目とする教員は、所属する学部によって異なる基準と手続きに則らなければならない。よって、教養教育科目を主たる担当科目とする教員の昇任人事は必ずしも適切に行われているとはいえない。

603② 教員の募集については、「教育職員選考基準」及び各学部が定める「教員人事規程」に基づき、各学部教授会で募集方法を決定し、公募又は推薦のいずれかの方法によって行っている。採用手続きの適切性については、「教育職員選考基準」に則り、学部長会が合意プロセスの中でその都度点検している。昇任については、「教育職員選考基準」第10条に基づき、同規程第4条の昇任の基準に該当する者について、各学部教授会で発議し、全学の専任教員に推薦依頼を公示している。

しかし、これら教員職員の選考基準については、大学基準協会から、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部（現、国際学部）を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否かについては多少不明瞭な部分が認められる」との助言がなされているが、このことについて、学部長会において課題は共有されているが、十分な検討がなされているとはいえない。

長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
601②	「教員組織の編成方針」の策定
601②	「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」検討結果の規定化
603②	「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化
項目 No.	
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
601② 努力課題とされた「求める教員像及び教員組織の編成方針」のうち、教員組織の編成方針は未だ策定できていない。
602② 2015年度、部局長会のもとに「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」を設置して、労務管理の観点及び教育研究の時間確保の観点から、教員の過度の負担を改善に資する取り組みを検討し、答申[602e]としてとりまとめ、その内容が部局長会で諒とされた。しかし、現在、その内容を規定化するまでには至っていない。
603①教養教育科目を主たる担当科目とする教員の昇任人事は必ずしも適切に行われているとはいえない。
603② 大学基準協会から、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部（現、国際学部）を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否かについては多少不明瞭な部分が認められる」との助言がなされているが、学部長会において課題は共有されているが、十分な検討がなされているとはいえない。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
601②	「教員組織の編成方針」の策定に向けて、学部長会を中心に検討を進める。
602②	「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」検討結果の規定化に向けて、担当部署と連携して取り組む。
603①②	「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化や昇任基準にかかる課題について、学部長会を中心に検討を進める。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
601	a	学校法人龍谷大学就業規則
601	b	教育職員の採用募集に関する申し合わせ
601	c	教育職員選考基準
602	a	補充人事フローチャート
602	b	大学院担当教員選考基準
602	c	専任教員の担当授業時間数に関する基準
602	d	専任教員役職兼務者にかかる負担軽減措置要項
602	e	専任教員の担当授業時間数の適正化に向けた検討結果について（答申）

II. 評価結果

<p>総評</p> <p>昨年度の【努力課題】である「求める教員像」が未制定である。遅滞なく整備することが望まれる。</p> <p>昨年度の【努力課題】である「教員組織の編制方針」が未制定である。遅滞なく策定することが望まれる。</p> <p>「大学院担当教員選考基準」が定められており、大学院研究科担当教員の資格等が明示されている。</p> <p>「専任教員の担当授業時間数に関する基準」や「専任教員役職兼務者にかかる負担軽減措置要項」等の規程において、授業担当時間数や負担軽減措置を定めていることは、適切な配慮と評価できる。</p> <p>専任教員の担当授業時間数の適正化を図るため、「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」の答申内容に即した制度整備（規定化）が望まれる。</p> <p>教養教育が学部横断的な教育課程であることを踏まえ、教養教育センターを設置し運営していること、適切な運営体制を整備していると評価できる。</p> <p>昇任人事に関しては、昇任に要する年限や審査委員会の構成方法、審査の方法が各学部によって違いがあり、各学部に所属している教養教育科目を主たる担当科目とする教員は、所属する学部によって異なる基準と手続きに則らなければならない、その昇任人事は必ずしも適切に行われているとはいえない。各学部の「教員人事規程」を平準化することが望まれる。</p> <p>教員人事に関わる選考基準に関しては、学部長会において認証評価で指摘を受けた課題は共有しているが、十分な検討がなされているとはいえないとのこと、2020年度に第3期認証評価の受審が予定されており、速やかな改善方策の検討・実施が望まれる。</p>
<p>長所・特色《箇条書き》</p> <p>教養教育が学部横断的な教育課程であることを踏まえ、教養教育センターを設置し運営している。</p>
<p>課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載</p> <p>「求める教員像」が未制定である。遅滞なく整備すること。【努力課題】</p> <p>「教員組織の編制方針」が未制定である。遅滞なく策定すること。【努力課題】</p> <p>専任教員の担当授業時間数の適正化を図るため、「担当授業時間数の適正化に向けた検討ワーキング」の答申内容に即した制度整備（規定化）が望まれる。【留意点】</p> <p>昇任人事に関しては、昇任に要する年限や審査委員会の構成方法、審査の方法が各学部によって違いがあり、各学部の「教員人事規程」を平準化することが望まれる。【留意点】</p> <p>教員人事に関わる選考基準に関して、学部長会で共有された課題（認証評価指摘事項）に対し、速やかな改善方策の検討・実施が望まれる。【留意点】</p>

2018 年度（対象年度：2017） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
604	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	B	B
	①ファカルティ・ディベロップメント(FD)の組織的な実施		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
604 龍谷大学として、ファカルティ・ディベロップメント(FD)を「各教学主体が掲げる、建学の精神にもとづいた教育理念・目標を達成するための組織的・継続的な教育の質及び教育力の向上を目指したすべての取り組み」と定義し、各学部・研究科のFD活動の取組状況や成果を全学で共有するため、報告会を開催し[604a], 情報共有とFDの普及を図った。また、元芝浦工業大学教育学習支援部門長(現芝浦工業大学名誉教授)を講師に招へいし、中途退学予防をテーマとして、第13回龍谷大学FDフォーラム2017[604b,604c pp.4-5]を開催した。	
長所・特色《箇条書き》	*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの
604	特になし
課題事項《箇条書き》	*伸長すべき点、改善すべき点
604	特になし

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
「理想の授業をつくろう」をテーマとして、学修支援・教育開発センターが連携し、十学部合同学生会が学生FDサロンを実施した[604c pp.3]. 学生が主体のFDサロンに、教員および事務職員が参加し活発な議論を行った。	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
604	学修支援・教育開発センターが主催する全学的な FD 行事の促進

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
604	a	2017 年度学修支援・教育開発センター事業総括
604	b	「第 13 回龍谷大学 FD フォーラム 2017」チラシ
604	c	学修支援・教育開発センター通信 2017 #02

II. 評価結果

総評
<p>各学部・研究科の FD 活動の取組状況や成果を全学で共有するため、積極的に FD 報告会を開催していることは、教員の資質の向上を図るための方策を組織的に実施していると評価できる。</p> <p>学生(十学部合同学生会)による学生 FD サロンを開催したことは、多面的な FD 活動として評価できる。</p> <p>FD フォーラム等の学修支援・教育開発センターが主催する全学的な FD 行事を、より促進することが期待される。</p> <p>龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施していることは、本学の教育理念の理解を深めることと評価できる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>各学部・研究科が積極的に FD 報告会を開催している。</p> <p>学生(十学部合同学生会)による学生 FD サロンを開催している。</p> <p>新任教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施している。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>FD フォーラム等の学修支援・教育開発センターが主催する全学的な FD 行事を、より促進することが期待される。【留意点】</p>

2018 年度（対象年度：2017） 自己点検・評価シート

基準 6	教員・教員組織
------	---------

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
604	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	B	B
	①教員の教育研究活動その他諸活動の評価とその結果の活用		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
<p>604① 本学は「教員個人の諸活動に対する自己点検」を内部質保証の1つの視点として位置づけ [604a]、全学的な取り組みとして「教員活動自己点検」を実施している [604b]。この取り組みは、2011 年度以降、全専任教員を対象に毎年度実施しており、教員は自身の活動を点検し、教育研究活動等の維持・改善・向上に努めている [604c、d]。</p> <p>教員個人における点検結果の活用は、2017 年度のシステム入力率が期首 95.2%、期末 98.6%（対象者 587 名中、未了者 8 名）となったことから、一定以上に なされていると認識している [604e、f]。ただし、2014 年度に入力率 100%を達成して以降、年々入力率が低下していたことから、改善をはかる必要があった。そこで、未入力者（未了者）の分析を行ったところ、新規採用教員が一定数いることが判明したことから、就任時研修に周知する案内文書を作成した [604g、h]。</p> <p>点検結果の組織的な活用には、制度開始以降、取り組みの弱い組織があるといった課題があった。2015 年度から展開している第 5 次長期計画第 2 期中期計画アクションプランには「教育職員の自律的な活動支援方策の実質化」が掲げられており、これに伴い、2016 年度に各組織において組織的活用方策を含めた「教員活動自己点検の手引き」を作成した [604i、j]。2017 年度は、各組織において、この「教員活動自己点検の手引き」に則った教員活動自己点検結果の組織的な活用を開始している。</p> <p>以上のことから、教員の資質向上を図るための方策として教員活動自己点検を活用し、組織的かつ多面的に取り組むことにより、教員及び教員組織の改善につなげていると評価している。</p>	
長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
604	2011 年度以降、継続的に教員活動自己点検を実施している。
604	他者評価に頼ることなく、自主・自律の点検活動を組織的に整備している。
604	本学の内部質保証を支える 1 つの方策として位置付いている。
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
604	教員活動自己点検結果の組織的活用について、取り組みの弱い組織がある。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
604①	2014年度以降、教員活動自己点検の入力率が低下している状況を危惧し、未入力者（未完了者）の分析を行った。その結果、新規採用教員の未入力者が一定数いることが判明したことから、就任時研修の際に周知するための案内文書を作成した [604h]。
604①	2017年度（対象年度：2016）の自己点検・評価結果において、「引き続き、学部等組織における教員活動自己点検結果の組織的活用の促進に取り組んで頂きたい。【留意点】」との意見が付された。これを踏まえ、2017年度第5回全学大学評価会議において、「教員活動自己点検結果の組織的活用計画・実績報告」について提案し [604k]、各組織が「教員活動自己点検の手引き」における組織的活用方策に則り、2017年度の点検結果を具体的にどのように改善に結びつける（た）のかを確認している [604]。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
604	教員活動自己点検入力率100%を目指す。そのために、適宜入力状況を確認する、締切前に入力を促す案内を行う、等の方策を実施する。
604	2016年度作成した「教員活動自己点検の手引き」の組織的活用方策に則り、各組織が2017年度の点検結果をどのように改善に結びつける（た）のかを確認する。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
604	a	龍谷大学内部質保証のあり方について
604	b	教員活動自己点検に関する実施要項
604	c	2017年度教員活動自己点検の実施について（依頼）
604	d	教員活動自己点検 点検結果の活用に関するガイドライン
604	e	2017年度 教員活動自己点検 入力状況（期首）
604	f	2017年度 教員活動自己点検 入力状況（期末）
604	g	2016年度 教員活動自己点検の総括について（提案）
604	h	教員活動自己点検案内（新任教員のみなさまへ）
604	i	2017 教員活動自己点検 点検結果の組織的活用方策一覧
604	j	教員活動自己点検の手引き（文学部等の例）
604	k	教員活動自己点検の活性化（実質化）について（提案）
604	l	教員活動自己点検結果の組織的活用計画・実績報告について（依頼）

II. 評価結果

総評
毎年度、全専任教員を対象に「教員活動自己点検」を実施していることは、教員及び教員組織の改善につながる仕組みであると評価できる。 教員活動自己点検のシステム入力を完了していない専任教員が数名存在した。 各学部・各研究科が教員活動自己点検結果の組織的な活用を開始したことは、教員及び教員組織の改善につながるものと期待されるが、まだ取り組みが弱い組織も存在する。
長所・特色《箇条書き》
毎年度、全専任教員を対象に「教員活動自己点検」を実施している。 各学部・各研究科が教員活動自己点検結果の組織的な活用を開始した。
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
教員活動自己点検のシステム入力率100%とすることが望まれる。【留意点】 教員活動自己点検結果の組織的な活用を、より促進させることが期待される。【留意点】。